

CCJ EVENT REPORT

第21回「CCJケースメソッド研究会」(2017年6月23日開催)

日本ケースセンターは、ケースメソッド授業の運営能力の向上に資するため、参加者同士で研鑽するディスカッションリードの演習を中心とした「CCJケースメソッド研究会」を開催してきた。

第21回では、従来型の形式であった有志によるディスカッションリードを実践した後に、その日のケースリードと討議展開について、モデレーターを中心に、参加者全員で振り返り、授業運営の改善策を検討するという授業研究方式を一旦横に置き、新たに、授業計画検討会形式として、課題に設定するケースを使った教育実践の可能性がどこまで広がるのか、そのケースからどのような学びが可能かといった視点で、より実践的で効果的な授業計画の可能性について議論すべく、参加者全員が授業計画を検討し持ち寄る構成で実施した。



会の進行役として、株式会社CCD 代表取締役でグロービス経営大学院でも客員准教授を務める藤野孝氏をコーディネーターに据え、課題ケースには、新幹線清掃で知られる(株)JR東日本テクノハート TESSEI を描いた、ハーバードビジネススクールでも人気のケース「TESSEI(テッセイ)の苦境」を取り上げた。

コーディネーター藤野氏の授業計画の紹介のほか、2名の参加者有志からも準備いただいた授業計画について、本人の解説を交えて参加者との質疑応答を交えて共有した。



会の冒頭オリエンテーションでは、モデレーターの竹内伸一氏から、ケースメソッド授業の設計で意識すべき構造設計として「教育思想→教育目的→授業計画→授業実践」の流れで熟慮することの重要性について助言があった。参加者からは、自身が想定していなかった論点が発見できたことや、

様々な角度の多様な意見に触れることができたことに加え、ケース討議を終えた時に何を参加者に受け取ってもらいたいのかをしっかりと考える重要性についてあらためて認識したなどの感想が寄せられ、今回の新しい試みでも十分な成果があったことを確認できた。